

(仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業環境影響評価準備書説明会 議事録

日 時 平成30年8月31日(金)  
場 所 鴻巣市 市民活動センター会議室C  
会議時間 午後 2時00分から  
午後 3時30分まで  
参加人数 2名  
顛末

司会 (新井主査)	1 開会
根岸事務局長	2 あいさつ
司会	出席者紹介
事務局	3 (仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業環境影響評価準備書説明会 (1) 事業の概要について (2) 環境影響評価手続きの概要について 資料をもとに説明。 (3) 環境影響評価準備書について 資料をもとに説明。
中日本建設コンサル タント(株)	4 質疑応答
質問者 A	説明会を開き地元から了承を得たという事実が欲しくて業務的に説明会を開いている。政府は広域化を推進し高温で焼却する施設にすることでダイオキシン類の発生を抑制しているが、有機水銀は発生を抑制出来ない。
事務局	ダイオキシン類及び水銀については、予測を行い、環境基準を下回った結果となっている。
質問者 B	セシウムやストロンチウムなどの放射性物質が原発以降問題となっているが、そういった物質が自然由来のものなのか福島原発の影響なのかを知りたい。
日本環境衛生セン ター	福島原発事故の影響によるものであると考える。ごみ焼却場の放射性物質を含むごみの処理として、福島県の事例だが、ろ過式集塵機で9割以上の放射性物質が捕集されている。
質問者 B	搬入されるごみの放射性汚染等の検査はしないのか。
日本環境衛生セン ター	個々のごみについて放射線検査はしていない。放射線量が高くなるドブや雨どい、落ち葉が溜まっている場所などは現在でも除染作業を行っている状況にある。
質問者 B	長野県に別荘を所有している知人が、自主的に放射線検査をしたら数値が高くて別荘を売却したと聞いた。埼玉県は長野県より福島県に近いので気になった。チェルノブイリ原発の話もあり長期的な放射線の影響

日本環境衛生セン  
ター

が分からないので将来の子どもたちのことが心配である。

チェルノブイリ原発の現地視察した経験から現地の状況を申し上げます。現地は原発事故から長年の月日が経っているが原発周囲30km圏内はいまだに厳重に立入禁止となっている。日本では徹底した除染が続けられている。低濃度の放射線については、飛行機に乗った時やレントゲン検査等により暴露を受けるが、その影響については、いろいろな議論もある。これは、ごみ焼却施設とは別問題である。ごみ焼却場で発生する放射線を含む灰については、きちんと管理するという点で住民の安全や健康を確保するという点で、ある意味では一定の措置は出来るのであろうと思われる。

司会

5 閉会のあいさつ

— 以上 —